

2021 推・帰・社

受 験
番 号

医学部保健学科

小論文Ⅰ・Ⅱ問題

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. この冊子のページ数は9ページです。1から3ページが小論文Ⅰ，4から9ページが小論文Ⅱの問題です。落丁，乱丁，印刷不鮮明の箇所等があった場合は申し出てください。
3. 問題冊子の余白は下書きに使用してもかまいません。
4. 解答は所定の解答用紙に記入してください。
5. 解答用紙は持ち帰らないでください。
6. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

医学部保健学科

小論文 I 問題

次の英文を読んで、問1～5に日本語で答えなさい。ただし問2を除きます。

“Do you need a hand?” I like this expression, because it describes a picture of reaching out and connecting with someone. Every now and then in Japan, I’ll see a new poster encouraging people to do exactly this by offering help to others. These koe-kake posters are often found in train stations.

I’ve done an image search of these posters and found (1)a pattern. The people needing help usually have physical disabilities, are elderly, have young children or are light-skinned, red or yellow-haired tourists holding a map. The person offering help to the foreign-looking tourist tends to use the English phrase “May I help you?” to start conversation. I think the last time I used (2)“May I help you?” was towards someone who had been staring at me for a little too long and I said so sarcastically.

Of all the times that a Japanese person has either come up to help me or the group I’m with, they’ve started the conversation in Japanese. If you want to offer help in English, there are more natural expressions: “Do you need a hand?” “Are you all right?”

When I was about to move to Tokyo, a Japanese acquaintance warned me that no one would help me if I was in trouble: “I was rushing to catch a train one day. I fell down the stairs and landed face first. I was sprawled out on the floor in shock and pain and everyone just walked around me.” I worried about this, but thankfully I didn’t have any (3)similar experiences during my time in Tokyo. Instead, I remember helping an elderly lady from my apartment building when she lost her balance while walking in front of me. At first, she was confused about what had happened, and then extremely apologetic that she had, in her words, “caused you so much trouble.”

Sometimes, worrying about causing others trouble makes it difficult for people to come to your help. This has happened a few times when I’ve seen mothers who are trying to carry their baby, groceries and a stroller down the stairs. I used to ask if they needed help, which (4)they would usually decline. Then I’d have to watch them struggle down the stairs while holding my breath and hoping they don’t fall with the baby. These days, instead of asking if anyone needs help, I just announce that I’m going to help and do it.

The signs that someone might need help aren’t always as obvious as those displayed on a poster. More than ever, we need to be considerate and kind towards others. I can only hope that we don’t need a poster to remind us to do so.

(<https://alpha.japantimes.co.jp/article/essay/202008/49150/>より一部改変して引用)

- 注) sarcastically 皮肉をこめて
sprawled 大の字に横たわった
stroller ベビーカー

- 問1 下線部(1)に関して、ポスターにみられる画一的な傾向を2つ答えなさい。
- 問2 下線部(2)の代わりに、筆者はどのような言い方が好ましいと考えているか本文中からそのまま抜き出しなさい。
- 問3 下線部(3)に関して、筆者の知人がどのような経験をしたのか説明しなさい。
- 問4 下線部(4)に関して、なぜ筆者がこのように考えているのか答えなさい。
- 問5 筆者は助けを必要とする人に対して、最近はどのような対応をしているのか答えなさい。

医学部保健学科

小論文Ⅱ問題

1 次の文章を読んで、問1，2に答えなさい。

真面目な組織というのは、作業手順をしっかりとマニュアルなどで示しているものです。日本航空でもほとんどの部門でマニュアル化が進んでいます。たとえば機体の整備作業などでは作業が細かく分解され、それら一つずつにマニュアルに基づいた細かい指示があります。そして、一連の作業を終えると「完了印」を一つずつつけるので、すべての作業が間違いなく行われたかを確認できるようになっています。

こうしたマニュアルは、いまや多くの企業活動には必要不可欠なものになっています。作業者がマニュアルにきちんと従うことで、作業レベルを一定に保つことができるからです。信頼性のある作業の実現のためには、マニュアル化は絶対に欠かせないものです。作業者は当然、これをしっかりと守らなければなりません。

その一方で、(1) マニュアルにはいろいろな弊害があることも知っておくべきです。もともとマニュアルには、それが確立するまでに試行錯誤を繰り返しながら得られた多くの知見が付随しています。ところが、こうした知見はマニュアル上に残っているものではなく、作業者にはマニュアルに従うことだけを求めているので、知見がなかなか伝わりません。

マニュアルを示して「このとおりにやりなさい」と言うと、多くの人はマニュアルに書いてある以外のことをしなくなります。「余計なことをしなくなる」というのは管理者の狙いどおりですが、同時に作業者が「考えることをやめる」という困ったことが起こります。条件が変わったら何が起こるかとか、関連する事柄としてどんなことがあるのかということは一切考えず、ただひたすらマニュアルに従うようになるのです。その結果、マニュアルに含まれている「試行錯誤を行いながら得られた知見」の本来の意味が次第に失われ、一部のことしか反映していない非常にやせ細った知識を元にした作業が行われるようになります。

つまり、マニュアル化の最大の弊害は、マニュアルの持つ意味合いや、なぜそのようなマニュアルがつくられたかという最も大切なことを、仕事をしている人自身が考えなくなることなのです。その状態で、ただマニュアルに示されている仕事を忠実にこなすだけになるとどうなるでしょうか。時間の経過や条件の変化によって生じる想定外のことが起こると思考停止の状態に陥り、うまく対応できずに大きなトラブルを引き起こすというのがよくあるパターンです。

また、そもそも仕事の内容がすべて指示され、たとえ不具合に気づいても勝手に修正することが許されないとすると、人間はそのことにかかなりのストレスを感じます。自分で納得できないものに無理やり従わされる気色の悪さを覚え、じつは守っていないのに「形のうえだけ守っているようにする」ということもよくあります。

たいていのマニュアルでは一項目ずつチェックをすることになっていますが、一つの作業が終わるごとに印を書き込んでいたのでは道具と筆記用具との入れ替えばかりが頻繁になるのでとても面倒です。そこで目先の効率化を求めて、やがて一塊の作業が終わってからまとめて印をつけるようになります。それがだんだんと高じて、全部の作業が終わってから一気に「ペケペケペケ」とつ

けるようになっていくのです。こうして建前と実態が乖離^{かいり}し、やがて最後にチェック漏れが起こるのです。

こういうケースはもちろん仕事をする人自身にも問題があります。しかし、マニュアルが作業の実態から乖離したものになっていたとすると、「守らないほうが悪い」とばかり言われていません。実態に即したものに^{けいがいか}変えていかないかぎり、マニュアル無視はなくならないでしょう。しかしマニュアル無視はいずれ必ず大きなトラブルや事故を引き起こすことになるので、形骸化している場合は早めに手を打つ必要があります。

このようなトラブルを避けるためには、マニュアルに対する考え方を^{けいがいか}変えるしかありません。マニュアルは絶対ではなく、様々な条件の変化によって、マニュアルで示しているものが実態に合わなくなる^{けいがいか}ことがしばしばあることを認めなくてはなりません。その場合、マニュアルは実態に合った形に変える必要があります。(2)「マニュアルは守るためにある」ものですが、されど「マニュアルは変えるためにある」という考えを徹底させるべきなのです。

(畑村洋太郎 失敗学実践講義 文庫増補版, 講談社文庫, 102-105, 2010. より一部改変)

問1 下線部(1)の内容を、解答欄 - 1 に 150 字以内で記しなさい。

問2 下線部(2)の理由を、解答欄 - 2 に 200 字以内で述べなさい。

2 次の文章を読んで、問1，2に答えなさい。

大学に入り、受験を突破した喜びもしいに薄れる時期、さて、これから自分はどのような種類の勉強をしたらよいのだろうか、戸惑いを覚える人も多いでしょう。

喩えていえば、高校までの勉強は河のようなもので、川幅や支流の有無はそれぞれに違うものの、行きつく方向は大学を受験して合格するというゴールが明快に示されていました。自分の解答についても正解・不正解がはっきりと出るし、偏差値や順位が示され、他人との比較のなかで、自分がどのような位置にいるのかについてもかなりの程度分かります。

それに対して、(1)大学での学びは茫洋とした海のようなもの。与えられた問いについて正解を言い当てるのではなく、自分で問いを立て、それを様々な角度から考えることが求められます。授業ということに限定しても、正解や点数がはっきり示されるものばかりとは限らないし、多くは選択科目で、各自がそれぞれ自分のニーズと関心に合わせて、学びたい科目を選び取ることになります。つまり全員が同じスタート・ライン上に並び立つわけではないし、だとすれば、他人と自分を比較することもあまり意味をなしません。

したがって、自分は何をやりたいのかを軸に据えた主体的学びの必要性が強調されるわけですが、そのように言われても、どこからどう手を付けて、どこを目指して進んだらよいかも分からないと感じる人は多いでしょう。

もっとも、(専門課程に進む前の入学直後は特に)大教室で先生の講義をひたすら拝聴することが多かった私の学生時代と違い、今の大学はアクティヴ・ラーニング形式の授業やTOEFL・TOEICなども取り入れた英語力の数値的測定など、学生の側の積極的学びを促すようなカリキュラムがかなり緻密に組まれてはいます。また、シラバスにも、この授業を履修すれば、かくかくしかじかの必要な知識や力量をつけることができるというゴールが明記されていたりもします。

そうすると、各自は大学側の組んだ教育プログラムのラインにある程度乗っかって進んでゆけば、大学生として必要な学びを満たして卒業できるということに一応はなるでしょう。にもかかわらず、私が強調したいのは、あなたの大学での学びを、授業に出て、課題をこなすことに限定して考えないでほしいということです。

点数と単位を稼ぐためだけであれば、それなりに要領のよいやり方があるでしょう。サークルの先輩や同級生の口コミによるネットワークから、単位を取りやすい科目・教員、試験対策等についての情報を手軽に仕入れることも可能です。しかしながら、大学での勉強を、授業に出て、よい成績をおさめるという目標に限定しても、自分は今、何を何のために勉強するのかという学びへの自覚を伴わない限り、大学時代は就職への単なる通り道となって空洞化するでしょう。

「何かの役に立つから～する」という考え方に対して、私は常日頃から疑問を抱いてきました。逆に訊きたくなるのですが、役に立たないことはやる意味がないのか？この考えを突き進めていった末に出てくるのが数値主義や効率至上主義です。もちろん数値によって成果を測ることは大事ですし、物事をなるべく効率よく進めようという思考が人間の能力や文化・文明を発展させてきたこ

とも否定するつもりはありません。しかし、数値や効率が自己目的化し、一人歩きをしたとき、それはしばしば人間性の根幹、つまり人はなぜ、何のために生きるのかという意味そのものを突き崩す危険があるのではないのでしょうか。

そもそも、世の中では多くの事象について、本来の意味や意義と、とりあえずの目標や目的そして結果が取り違えられているような気がしてなりません。

「食事」を例として挙げましょう。

「人はなぜ、何のために食べるのか？」と言えば、もちろんまずは生きてゆくための栄養・エネルギーを体内に取り込むことが究極の目的と考えられるでしょう。しかしながら、個人にとっては食べることの意味はそれだけに限定されないはずで、エネルギーを体内に取り込むことを突き詰めて合理化・効率化すれば、将来科学が大きく発展した場合、カプセルのようなものを何錠か飲めば、それで十分ということになるかも知れません。それによって料理をするという労力も、食事にかかる時間も、大幅に短縮されるわけですが、そんな未来が実現することを心の底から望む人間はまずいないでしょう。それはなぜか？

食べるという行為から、おいしい料理を味わうという要素がなくなれば、食事の時間は文字通り「味気ないもの」になり、私たちから生きる喜びの幾分かは確実に失われます。それだけではなく、錠剤による効率的エネルギー摂取は家族や友人と食卓を囲み語らう貴重な時間をも奪うことになるでしょう。

これは一つの例にすぎませんが、何かを「味わう」という要素がなければ、私たちの人生から人間らしさは失われるのです。逆に、人間は「味わう」ために生きていると言ってもよいでしょう。

そして、さらに言えば、何かをしっかりと感じ、味わうためには、ある程度の時間の長さというものが必要になります。食の世界でも、ファーストフード化の傾向に異を唱える「スローフード」という思想が出てきました。その考えにのっとりならば、食事が心身の栄養となるのは、「時間をかけて味わう」という行為がおのずともたらす結果なのです。

こうした視点は、AIの機能が発達し、人工知能が人間の生の領域を様々に侵食しようとしている現代においてこそ、ますます重要になってくるはずで、味わうという行為のうちに発揮される感情の働きや情緒の醸成こそは、人間にあってAIには決して届かない領域だからです。そうした人間ならではの営みを代表するものとして食を例に挙げたわけですが、より広く人間の知的活動・学問全般を考えるうえでも、(2)「味わい」という視点は大切になるでしょう。あなた自身に真^{まこと}わったこの人間独自の能力をどう育み、伸ばしていったらよいか、大学での学びの出発点において、そのことを少しでも考えてほしいと思います。

(上田紀行編著、山崎太郎著 新・大学でなにを学ぶか 岩波ジュニア新書 912, 114-120, 2020.
より一部改変)

問1 下線部(1)の内容について、筆者の考えを解答欄 -1 に 150 字以内で記しなさい。

問2 下線部(2)の視点にたつて、大学で何を学ぶか、あなたの考えを、解答欄 -2 に 200 字以内で述べなさい。